

令和7年度 第3回 松本市史 平成・令和版 編集委員会 会議録

日 時 令和8年3月27日(金) 午前10時～11時15分

場 所 松本市大手公民館 視聴覚室

出席者 ・編集委員 直井雅尚委員、一ノ瀬幸治委員、渡辺宏委員、柏澤由紀一委員、木曾寿紀委員、窪田雅之委員 (欠席)遠藤正教委員
・事務局 長岡行政管理課長、石川文書館長、木曾寿紀専門員(兼委員)、前田優香職員

1 開会

2 あいさつ (長岡課長)

3 会議 (議長 窪田委員長)

(1) 報告事項

ア 地域づくりセンター長、地区公民館長への依頼内容について

(議長)

事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

(資料をもとに説明、以下ことわりのない限り、事務局説明、答弁は木曾専門員)

(議長)

内容的に特に依頼事項のところが(1)(2)(3)とあるが、この仕様で実際に地区に入ったとき、協力依頼を出してもらえれば良いか。

(E委員)

公民館長会用に、35地区それぞれ地区を紹介するパワポデータが揃っている。各公民館が冊子に類するものを作っているので、比較的入手が容易である。

(議長)

全地区でその概要をきちんと文章化してあるという事なので、各地区のことを記述していくにあたり、参考にさせていただくところは多分にあると思う。

(E委員)

作業的には全部出してもらい、いくつかを抽出して、やり方を決めてそれに合わせた方が早い。

(議長)

個別に項目を決めてサポートをいただくことにはなる。事務局の方で集約し、やっってもらう形になると思う。他に、いかが。

(D委員)

各地区ですでにもう冊子類とかで結構まとまってしまうと思う。だから聞き取りの位置づけってどうしたらいいか、すごく視覚的な部分をどう取り込むか問題に

なると思う。

(議長)

先の公民館資料は参考にはなるし、各委員がそれほど苦勞しなくてもできる部分があると思う。D委員から聞き取りについてどういう切り口で入っていくかというところは、少しその辺りの特色を出すということになるのかなと思う。

(D委員)

基本的に洩れた部分を拾ってくるということと思う。地域の変遷がわかる聞き取りができればいい。主観的だがそれぞれが見つめたものでもいいかという感じがする。

(議長)

具体的に言えないが、各地区の事を記述するにあたって足りない部分を補わなければならない。各地区で聞き取れることで少し話が出た。今日は明確に決まらないと思うので、その辺りもこれから進めるに当たって練っていくことになろうか。

D委員、いかが。

(D委員)

はい。

(議長)

その他に一旦よいか。

(異議なし)

イ 調査活動時のネームプレートについて

(議長)

続いて調査で使うのネームプレートのご説明をお願いしたい。

(事務局)

ネームプレートの資料はないが、市役所職員がネームプレートを付けており、大体5.5センチ9.5センチになる。こんなネームプレートを各委員に用意することとしたい。必要とあれば、名刺を用意することも考えられる。

(議長)

よろしくをお願いしたい。

(2) 協議事項

ア 前回の質問に対する事務局方針について

(議長)

続いて(2)の協議事項に入る。前回の質問に対する事業方針についての説明をお願いしたい。

(事務局)

(資料にて説明)

(議長)

5番の書式の考え方は、後ほどまた執筆要項の方で触れると思うが、それも含めて、いかが。

(A委員)

事務局方針4で、委員の担当分野について、委員イコール執筆者ということか。

(事務局)

委員という意味合いで考えているが、以前の委員会時にも出たように、一部外部の方に書いていただくことも考えられる。基本的に委員ということである。

(D委員)

年表の扱いについて意味がわからない。だいたい総年表はダイジェスト的な役割として本文に入っているものと思う。パッと見た時に視認的な役割として総年表が入っているといいと思うが、いかが。

(議長)

年表の扱いについて事務局はどう考えているか。

(事務局)

構成の形が、本文中見開きで左に年表、右側に文字が並ぶってようなことであれば、年表をどうしようかと考えている。もし本文中に年表調のものが入らないようなら、末尾の総年表として入れ込みたい。ただ、各ページのところでもう入っているようであればそれが末尾の年表の役目を果たしているものとして考え、入れ込む事を全体の兼ね合いのなかで検討したい。

(議長)

D委員よろしいか。

(D委員)

はい。

(議長)

今回の市史では他のものも含めて重複がたくさん出てくるし、年表もおそらく重複がある。資料的な価値とすれば年表もきちっと巻末にあった方が便利ではある。

(D委員)

基本的に僕らの役割はしっかりとした年表を作る事だと思っている。

(議長)

年表の位置づけはまだ練っている段階で、確かに年表の位置づけを、しっかりと考えて作成するのがよい。

(D委員)

年表がないと書きづらい。最初に年表とか地域の歴史をきちんとまとめてからコラムを書いてもらった方がいいと思う。

(議長)

その他、いかが。

(A委員)

各地区の特徴があるが、その地区の全部は書ききれない。仮でもいいが、年表を作成してそういう中で、例えばこの地区ではこの人、本当にこれ取り上げるべきとかそういうことにはなってくると思う。年表をもとに各地区の特徴を把握して強調すべき点を押さえるのは大事だ。

(議長)

いまお二方から年表の位置づけがあった。方向性としてどうか。

(事務局)

各委員、最初に各地区を担当するときに最初に表にして年表を書き出し、ピックアップする形になるかと思う。最終的にどうなるにせよ、年表が一つ大切なポイントになってくる。整合がとれるように、しっかり整えていきたい。

(議長)

この年表の役割は大きい。C委員、いかが。

(C委員)

年表があると読むときに便利だし、読者の便を図ることは大切ではないか。

(議長)

第2回編集委員会で各委員さんから質問、意見が出たところで、事務局方針を示していただいた。方向性、皆さんに理解をしていただいたということでよいか。

(異議なし)

イ 構成・内容などについて(各章の性格・棲み分け、年表等の書式)

(議長)

それでは続いて構成内容などについて説明をお願いしたい。

(事務局)

(資料にて説明)

(議長)

意見、質問などがあればお願いしたい。

(事務局)

コラムは市民の方からお寄せいただく形で、当然120人地域の声を拾いながら、委員の皆様にも記述をいただく、可能性がある。

(議長)

E委員、今までの経験からどうか。

(E委員)

コラムについて120人は結構大変と思う。対象とする範囲の年表みたいなもの

がある程度あって、そういうものをみながらでない、寄稿を頼みづらい。そういう作業も並行して進めていった方がいい。

(D委員)

年表をもとに、こういうことを中心に書いてくださって言った方が、頼みやすい。

(事務局)

今回、調査等協力については、依頼文の形もあるが、コラムも方針をもって、お願いしていく形を一度こちらの委員会の方に諮り、齟齬のないよう進めたい。

(議長)

他に、いかが。

(A委員)

4章は面白そうだが、128ページという分量でいまひとつイメージできない。

(議長)

A委員から面白そうだけど、理解するのに難しいとあったが、いかが。

(事務局)

4章は、市民目線の事も扱いながら、この章立ての中でも、非常に大切な章の一つになると思う。4章はコラムの話と混ぜるといけないが本来の松本市史っていう中で取りこぼしてしまうようなものも拾い上げる機能を付与するのが4章の位置づけと考えている。

(A委員)

4章の分量が128ページ。そんなに書けないと思う。かなりの分量をとっているのだから、今回の市史の特色が出るのではないのか。この分量に見合うだけの構成や内容を考えていったときに、これが今回の肝にもなるのかなという印象である。

(E委員)

この構成で、2章と3章だったら分かる。しかし、4章でこれを書いてあるイメージに何かストーリーがあるか。松本と映画。山崎貴監督までこういうようなほとんど中にこう書くようなイメージとか、あるいは教育の方の学都ということで今その開智学校の展示で、工夫し開智学校を中心に林間保育とか子守教育だとか。また山の方でいくとウェストンから芥川龍之介などなにかそんなイメージを持っているか。

(事務局)

E委員の方からあったようなイメージ、プラスアルファで考えているが、そういう面ではこの全章がある面で皆さんの腕の振るいどころと考えている。委員会に諮った上だが、今までの市史には見られない特徴が4章の位置づけで考えている。

(E委員)

そういう意味では、A委員の専門の発掘された、考古で見るいろんなずっとあるから昔からのいまなにかが発掘されているとか、議長の民俗とかでそんなような角

度から松本の特徴を書いていくのか。

(事務局)

「120彩」と彩りとなっているのはまさしくそこを特出ししてのことで、皆さんもいろいろと常日頃業務にあたる中でストックはあるでしょうからそういうものを遺憾なくこの章に、ぶつけていただければと思う。

(D委員)

写真を並べてキャプションをしっかりと差し込むだけでも結構いい感じになると思う。そこに文章を差し込むのも良いかなと。

(議長)

4章が今回の平成令和版の一番の肝になる部分かと思う。1章～3章を受けて、4章で新しい市史のらしさをそこで表現できるということになればよいのではないか。

ウ 執筆要項

(議長)

次のウ執筆要項について事務局お願いしたい。

(事務局)

(資料をもとに説明)

(議長)

個人的に動詞の部分が気になる。たまたま新しい伊那市史が先日刊行されたが、本文はですます調とのことである。ご意見があれば。

(G委員)

ですます調についての部分。何年か前、昭和史本を研究者主体に作ろうとし、「である調」だと固い表現になるので、ですます調に統一して読みやすいようなものを作成した例がある。今回の市史は読みやすさ、親しみやすさを優先するのであれば、である調ではなくて、ですます調を導入してみてもいいか。

(D委員)

ですます調であれば分かりやすいというのは大違い。文章が無駄に多くなる。個人的にはよくないと思う。それをするならば、コラムをですます調にするのが正解だ。また、コラム依頼執筆するとき、この基準を全部やらせるのか。執筆者の負担にならないように考えてほしい。

(議長)

その他に、いかが。

(A委員)

市役所の文書事務の基準に準じているのか。市役所で作るものなので文書事務と整合をとる必要があるのか、それとも独自に考えるのか。

(事務局、行政管理課長)

文書事務の手引きはご存知かもしれないが、国の公用文作成要領に準じて作っている。国の公用文作成要領の方も実はだいぶ柔軟化してきていて、令和4年だったと思うが、全面的な改定があって、いわゆる例規文は今までと同じような形の表記例になっている。それ以外のものは、通知文などについてだいぶ柔軟にやるということになっている。執筆要項案に書いてあるような接続詞とか副詞とかをひらがなにするというのは、公用文作成要領に従った形になっているかと思う。他については皆さんの意見の中で、決めていただければと思う。市役所の文書作成の手引きに従っているかということとは離れて考えていただいて大丈夫だ。

(議長)

松本市史の用語使いは、皆さんの意見を聞いていただいて成案に持っていくということになる。例えば、本文はである調、コラムみたいなところはですます調、アクセントをつけるなどが考えられる。そのあたりは事務局の方におまかせをしてもよろしいか。

(D委員)

はい。

エ 執筆分担について

(議長)

次に執筆分担について、説明をお願いしたい。

(事務局)

1章については市勢、全体の概要的な部分を扱う。今の構成見た中で年代ごとというような形、この年代ごとを分担して委員に執筆していただく形で考えている。2章について、地区の各論になってくる。あゆみをたどる章は専門分野。2章については松本市の姿という地域の歩みをたどる、各地区の記述になってくる。原始から現代へととなっており、ここは委員各位、専門分野でそれぞれお願いしようと考えている。2章に関しては各地区ごと各委員を割り振っていく形で検討している。3章は市政への総論。政策ごとお願いするような形で事務局としては考えている。4章の未来へのノスタルジーとメッセージ、市民目線の、この章立てでは、概要として令和9年から明治40年へととなっており、4章に関しても年代ごとに区切って、お願いするような形で考えている。

(議長)

執筆分担について、もう少し細かくきちっと相談させていただく中で決めていただこうと思う。一旦執筆分担の考え方など、進め方について皆さん質問、意見があれば、いかが。

(事務局)

2章について、特徴だとか文化財とか行事と、遺跡であったり、当然各委員が積み上げていく中で、足りない部分というのがそれぞれあると思う。任せきりでなく、専門分野の委員の視点も串刺しで入る様な形で編さんを進めていければと思う。

(E委員)

3章の市政と市民の暮らしというところだが、各部の概要説明書っていうのを作ってるので、何か基準を示して、それぞれの部署に対して平成から令和にかけて各部で取り組んだ事業の概要と成果について、統一の様式を出して、それをベースに書くっていう事だと思う。

(議長)

事務局には進めていくということをお願いしたい。

(A委員)

2章は地区ごと、フォーマットなど最初に構成を決めて貰ってそこに埋めこむ形がある程度できると、地区で記述にむらが出にくい。事務局で調整してもらいたい。

(議長)

事務局にその辺りをお願いしたい。

(事務局)

肉付けした上で、またお示しできれば思う。

(3) その他

(議長)

全体をとおして、その他に、いかが。

(D委員)

第4章は1年1ページにするのか。現在と過去を見据えた場合に、いろいろ書く余地があって1年1頁で決めない方が個人的に作りやすい。

(事務局)

検討し、次回委員会に提示したい。

(議長)

分担、内容も事務局の方でもう一度たたいて、先ほどの役所の各部署からの協力それから地区版についてはフォーマット、事務局をお願いしたい。議事は終了したと思うので、今日はこのあたりとしたい。

(各委員)

(異議なし)

(議長)

進行を事務局に返す。

4 閉会